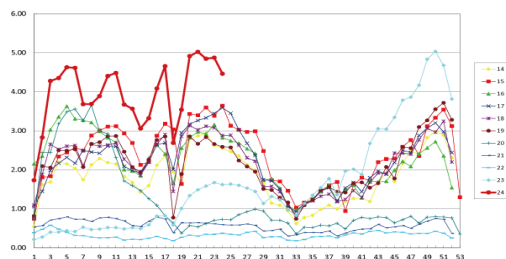
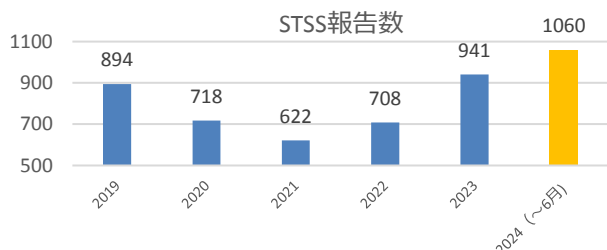




人食いバクテリアとも呼ばれる 劇症型溶血性レンサ球菌感染症ってなに？

●劇症型溶血性レンサ球菌感染症（STSS）が増加中

ニュースなどでもたびたび報道されていますが、今年は今までに例のないほどの感染者数となっています。子供から大人まで幅広く感染するので注意が必要です。



●劇症型溶血性レンサ球菌感染症（STSS）とは

溶血性レンサ球菌には、多くの種類があり、一般的には急性咽頭炎などを引き起こす細菌として知られていますが、まれに引き起こされることがある重篤な病状として、劇症型溶血性レンサ球菌感染症（STSS）があります。

STSSは、突発的に発症し、敗血症などの重篤な症状を引き起こし急速に多臓器不全が進行することがある重症感染症であり、その死亡率は約30%とされています。重症化するメカニズムはまだ解明されていません。

●主な症状

最初は、腕や足の痛みや腫れ、発熱、血圧の低下などから始まることが多く、その後、組織が壊死したり、呼吸状態の悪化・肝不全・腎不全などの多臓器不全を来し、場合によっては数時間で、非常に急速に全身状態が悪化します。

●治療方法

適切な抗菌薬による迅速な治療、必要に応じて緊急手術による広範囲の病巣の除去、集中治療室での全身状態の管理、などを行います。

●なぜ近年増加しているのか？

STSSの患者数が増加している理由は必ずしも明らかではありませんが、2023年の夏以降、A群溶血性レンサ球菌による急性咽頭炎の患者数が増加していることが要因の一つである可能性があると考えられています。

STSSの原因となる菌種としては、A群、B群、C群、G群レンサ球菌が主なものとして知られています。

【セルフチェックのポイント】

●予防法は？

STSSに限らず、多くの感染症の予防には、手指衛生や咳エチケット、傷口の清潔な処置といった、基本的な感染防止対策が有効です。